

年間第3 1主日C

出会いからの救い

ルカ19.1-10

私の知り合いに、週に一度は必ず教会に通っている人がいます。この人が教会に来る理由は、数年前自分は神様に悪いことをしたから神様に赦してほしくて教会で祈っていると書いていました。彼は神様の前で罪人であるという罪悪感を持っており、神様のゆるしを求めているのです。彼は教会に来るたびに、神様に自分の悪いところを告白し、ゆるしてくださいるように祈ります。いくらかの献金をします。この人の祈っている姿を見るたびに、私は感動してしまいます。今では、少しずつですが、私たちは友人になりました。彼が来るときは一緒に祈るようになりました。神の前で罪を認め、神に罪を許されて生きることの素晴らしさに感動しています。

今日の福音は、イエスとザアカイという名前の徴税人との出会いについて書かれています。この出会いは、イエス様と様々な人々の出会いの中でも、特別な出会いでした。なぜなら、このザアカイとの出会いの中で、イエス様はご自分が誰なのか、なぜこの世に来られたのかをはっきりと語っておられるからです。

イエスはこのように言っておられます。「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」ルカ19.10。

つまり、イエスは、罪人と言われている人、失われた人、追放された人、見捨てられた人を探して救うためにこの世に来られたことが分かります。

この福音で、イエスは罪人に対する神の慈悲と赦しのメッセージに焦点を当てておられます。先週の日曜日にも、ファリサイ派の人と徴税人の譬えを見ました。その中でも、神様は罪人とされていた徴税人に、憐れみを示しておられることが分かりました。

今日の福音でも、イエス様は、人々から罪人と呼ばれているこの徴税人の頭かしらの家に泊まることを人々に聞こえるように言われました。罪人として蔑まれていた、この人に憐れみをかけておられるのです。イエス様はわざわざ木に登っているザアカイに向かって「急いで降りて来なさい」と声をかけられます。

ここでイエス様が彼の名前を知っていて、名前を呼ばれたことは、とても興味深いことです。

名前を呼ぶということは、相手に対する尊敬と愛情を示すということです。大切なことですね。その瞬間から、ザアカイの人生に救いが、入っていくのです。イエス様との出会いで、ザアカイの人生は一変しました。

ここで、ザアカイという人とイエス様の出会いについてももうすこし見てみましょう。まず今日の福音書では、彼は徴税人の頭であると書かれています。イエスの時代の徴税人とはどういう人だったのでしょうか。

徴税人というのは、当時の社会の中では差別された人でした。ローマのために税を取り立てる仕事をしていました。高い税金をかけして一部を手数料として自分のものにしていました。またユダヤ人からローマのために税を取り立てていましたから、嫌われものでした。しかも徴税人の頭ですから、ローマ人と付き合いなければなりません。それで、汚れた人と言われていました。そのため神殿にもなかなか行けません。このように差別されているザアカイに、イエスは言葉をかけてくださいました。それだけではなく、ザアカイの家に泊まり一緒に食事してくださいました。これは、イエスご自身が差別される状況に身を置かれたということです。つまり、ザアカイの苦しみと同じ状況にイエスが身を置いてくださったということです。

その当時のことを考えると、これはたいへんなことでした。それはザアカイ自身の気持ちに入り込んでみるとわかります。お金持ちになっていましたが、劣等感をもち、孤独でした。自分の運命を嘆いていたにちがいありません。しかもその当時の人たちからは罪びと、汚れたものとして、冷たい白い目で見られていました。そのようなザアカイにイエスは言葉をかけ「家に泊まりたい」、つまりあなたの家族の一員になりたいという申し出をされます。イエスはザアカイと同じ運命を背負ってくださったのです。このように共感してくださるイエスに出会えたということは、ザアカイにとってたいへんな喜びであったにちがいありません。イエスは、重荷を負っている人、労苦している人、ほんとうに痛めつけられた状況にある人と同じ立場になり、伴侶となって苦しみを共にしてくださるのです。

皆さん、今日のイエスとザアカイの出会いから、私たちはどのような福音を聞くことができるのでしょうか。

まず、私たちが思い出さなければならないのは、救いは常に神からの贈り物であるということです。私たちにはその資格がないにもかかわらず、神は私たちに救いに与えてくださるのです。

もう一つは、イエス様との出会いの後、私たちは心を入れ替え、ザアカイのように喜んでイエス様の道に従うことができるようになるということです。

今日、私たちは日常生活において、貧しい人、見捨てられた人の中にもともにおられるイエス様に出会うことができるように祈りましょう。そして、私たちが回心して、人生の終わりまでイエスの生き方に従うことができるように神の導きを祈りましょう。

Lazun Naw san Vincent (pime)